

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【下落合小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	表現力〈コミュニケーション力・アウトプット・情報発信〉	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	・児童が主体的に取り組むことができる授業を展開し、「教師が教える授業」から「児童が学びを獲得する授業」へと転換を図りながら、自ら獲得した学びを生活の中で生かす(やってみる・つかってみる・広げてみる)ことにより、さらに知識・技能を高めていく。【通年・1単元1回以上】 ・カリキュラムマネジメントを視点とした6年間を貫くストーリーの中で、特に総合的な学習の時間における体験活動をより充実させ、児童が地域の中にある学校として地域社会をつくる一員であることを感じながら獲得した学びを新規導入のiPadなどを活用してアウトプットする機会を増やし、表現力を高めていく。【通年・1単元1回以上】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実感把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	国語・算数どちらにおいても、全国・県の平均正答率を大きく上回る結果となった。国語では、学習指導要領の内容で言うと、知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」が高かった一方で、思考力・判断力・表現力等の「書くこと」はやや低い傾向がみられた。算数では、学習指導要領の領域で言うと、「測定」はかなり高かった一方で、「変化と関係」は課題がみられた。無回答率を見ると、国語では「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかを見る」問題で最も高く、算数では「体積の意味について理解しているかどうかを見る」問題で最も高い結果となった。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語・算数ともに正答率は高く、学習したことが身に付いているといえる。ただ児童質問の結果をみると、どちらの教科も「得意ですか」に対して、肯定的な回答は比較的低い。そして算数においては「好きですか」に対して、全国・県と同等かそれより低い結果となった。また「自分にはよいところがある」に対して、肯定的回答が9割以上となり、自己肯定感が高い傾向にある一方で「将来の夢や目標をもっていますか」に対しては、否定的回答が2割弱あり、次のステップに対する具体的な見通しが持てていなかったり、将来に対する不安を感じたりしている傾向がある。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	・iPadの新規導入に対して、昨年度から計画的に準備をしてきたため、児童は順調にスタートでき、操作を覚え、授業で活用できている。教員についても、学校の推進委員会やICT研修等で情報交換やスキル向上、アップデート等をしているが、まだ戸惑うことがあったり、効果的な活用ができていなかったりする面もある。今後も「デジタルを基盤とした学習」をベースとして、児童が主体的に取り組むことができる授業、学びを生活で生かせる授業を目指し、学力向上につなげていく。 ・総合においては、実際に自分の目で見たり、ゲストティーチャーの話を聞いたりして体験活動を充実させることができた。さらに今後は獲得した学びをアウトプットしながら表現力を高め、自分の将来と結び付けられるようにしていく
	B	
学力向上策の 見直し	①の学力向上策に加え、総合的な学習の時間や各教科等の学びを自分の生き方や考え方に広げようという投げかけを行っていく。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

教育研究所